

4(2) 学習状況の評価

こんな実践

「自分たちの地域は、人口が少なくなっている。地域のために何かしたい」という思いから、「地域のために自分たちができることはどんなことがあるのだろうか?」という問いをもった子供たち。地域の魅力について調べ、その魅力を観光客に伝えるためのパンフレットをまとめていった事例。

実践学校 H小学校

実践学年 5学年

実施時期 9月～11月

単元名 「ようこそ、私たちのまちへ」

(1) 「育成を目指す資質・能力」を基にした評価

○ 子供たちは、地域の魅力である、おやきについてその作り方や歴史をパンフレットとしてまとめていこうと考えました。そして、「おやきをPRするためには、まずは自分たちがおやきのことを知りたい」と願っていました。そのことを捉えた教師は、実際におやきを食べたり作ったりする体験を通して、H小学校の全体計画から、以下のような「育成を目指す資質・能力」を基に評価していきました。

知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> この地域で大切にされてきたおやきの作り方や歴史を理解する。 実際におやきを食べたり作ったりしながら、おやきの魅力を感じる。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> おやきに興味をもってもらうには、どんな内容のパンフレットを作ればよいか考え、表現する。 おやきに関しての集まった情報から、目的にあった情報を選択し、活用する。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 読み手に伝わる、よりよいパンフレットにするための方法やアイデアを考えて、進んで活動している。 友だちと協力して、見る人に興味をもってもらえるようなパンフレットを作り上げようとしている。

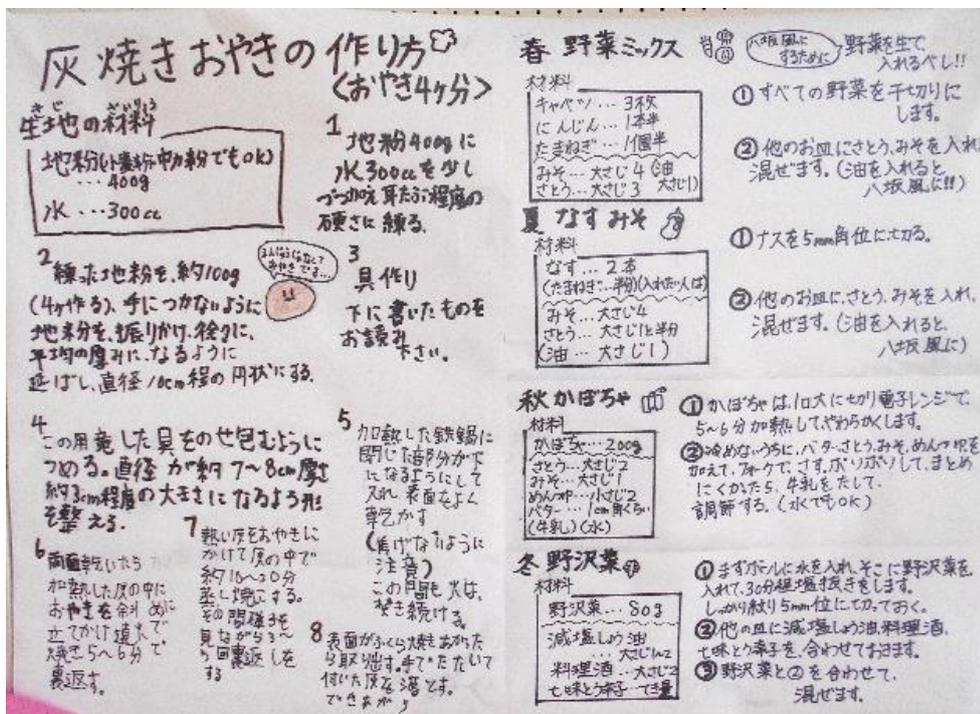


ここがポイント!

- 「地域のためにできることは何か」という、子供たちの問いを大切に、具体的に子供たちが体験できる場を設けることで、地域の魅力を五感で感じるすることができます。
- どのような学習活動において、どのような姿として実現されるかをイメージし、「育成を目指す資質・能力」を基に評価していきます。

(2) 話し合いからの評価

○ おやきについてその作り方や歴史を知った子供たちは、その魅力が伝わるようにするために、パンフレットに入れる内容について話し合いました。「おやきについて詳しいことを書きたいけど、読んでもらう人にわかりやすくするにはどうしたらいいかな」という発表に対し教師は、「地域のおやきのことを知ってもらうために、読んでもらう人のことを考えてパンフレットを作ることは大事な視点だね」と伝えました。実際におやきの魅力を子供たち自身が感じ、それを伝えるためのパンフレットは読み手を意識させることが大切であることを評価していました。そのことで子供たちの意識が高まり、次の活動につながっていきます。



ここがポイント！

- ・子供たちが追究していることについて話し合い、表現したい内容について教師が評価することで、次の活動につながっていきます。
- ・PRしていくには相手に伝わるようにしなくてはいけないという相手を意識していくことが、自分たちの問いに向けた活動になっていきます。

まとめ

各校の全体計画から、「育成を目指す資質・能力」を基に評価し、授業を構想することが重要です。そうした評価を行うためには、一人一人が学習を振り返る機会を適切に設けることが重要です。